

令和2年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和2年 9月23日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時58分

○会議に付した事件

協議事項

1. データ研究「外国人登録（過去5か年）について」
-

○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長 高 橋 裕 明 君

人口減少に対応する政策研究会（第6回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究について

（1）データ研究「外国人登録調査（過去5か年）」

○大淵座長 外国人労働者の資料がある。

○高橋局長 前回森委員から外国人労働者の状況について話があり、企画課では現在持ち合わせている数字はないとのことで、今回資料を作成した。外国人は平成27年2月末に90人であったが、令和2年7月末で214人に増加している。圧倒的に女性が多い。男性44人に対して女性が170人である。グラフについては、国別では平成27年から平成30年頃までは中国が多く、その後はベトナムが一番多くなっている。年代別では20歳代が最も多く、現在は101人いる。居住地別では、ずっと竹浦地区が多く現在73人で、2番目は白老鉄南地区で、寮があるためだと思われる。次に、白老鉄北地区、虎杖浜地区が多い。外国人総数では、在留資格別では技能実習が一番多く、平成27年に50人であったのが、令和2年は148人となっている。2番目は永住者である。配偶者は日本人の配偶者の集計である。技能実習には特定技能実習というものがあり、1年・3年がある。来町後に結婚した外国人がいる状況が見て取れる。

○長谷川委員 白老町の総人口にはどのようにカウントされているのか。

○高橋局長 人口は外国人登録人数が上乗せされて総人口となる。

○久保委員 建設業に関わる技能実習は3年と聞いているが、1年・2年ということで業種は何か。

○高橋局長 1号、2号、3号という区分で、技能実習のほか文化活動、特定活動があり、それは5年、3年、1年がある。その範囲や職務により期間が異なると思われる。詳細は法の分類によるものである。特定技能実習の2号では、特定産業分野に属する熟練した技能を要する業務に従事する外国人が対象となっており、こちらに該当すると思われる。

○大淵委員 介護に関わる人はこの特定技能実習2号に当たるのかもしれない。

○氏家委員 外国人雇用については法律が改正されるに伴い、仕組みも変化していることを踏まえると、そういったところを注視すべきである。せっかく来日して3年間いるならば、そのまま帰国してしまうともったいない。その後もとどまれる制度が望ましい。

○貳又委員 ベトナム人が増えていて、牛肉まつりなどでベトナム料理を振る舞えないかなどという話があったが、実習生を抱える企業と話をしたときに、彼らは技能実習生として来ているため、まちづくりの行事に参加するには申請など手続きが必要だと聞いた。今後はそういった人たちがまちづくりに参加できるようになる必要がある。ベトナムから来る人は高学歴の人がいて、母国に戻ると力を発揮して働くようになるという。審査の関係はどのようになっているのだろうか。

○高橋局長 国際化協会など中間組織があるまちでは、交流や参加の場をつくる事例がある。

○大淵座長 イベントではなく地域間交流であれば手続きは必要なのだろうか。

○高橋局長 何らかの制約があると思われる。技能実習生がいる町内企業では定期的に交流会を開催していると聞いた。手続きを踏んでいるものかは分からない。

○貳又委員 聞いた話によると、文化を学ぶために見に行くというものは構わないらしい。まちが依頼してイベントに参加するものは手続きが必要だと聞いた。

○氏家委員 異文化交流を先駆的に行うまちとして、今何をすべきか。中間支援組織とともに文化交流を白老町でできる仕組みをつくらないといけない。母国に戻って活躍する人のほか、白老にとどまりたいと思う人も出てくるかもしれない。壁があるなら取り除く手立てはあるのではないか。

○大淵座長 結婚している外国人が技能実習生かは分からないが、白老町に来てから結婚したとなれば、政策研究会で取り組んでいることとの関連がある。そのようなところを一つ視野に入れば、若者による人口増加の大きなウエイトになるのではないか。中間支援組織はどういったことで設立できるのかを研究するのもよいのではないか。

○氏家委員 ウポポイで働く人に対する施策を打ってきているが、今後のことが施策に反映されていないと思われる。外国人が町内で暮らしていくための環境整備が必要である。

○西田委員 技能実習を終えて母国に戻り、再来日して住み続ける人もいるので、少々調べられるとよい。

- 氏家委員** このようなことがしっかり分かってきたときに、町への政策提言につながるのではないか。一つの成果として残っていくものである。町内の人材は外国人も含めなければ足りない。
- 高橋局長** 方法として企業訪問や外国人労働者のいる主要な企業から人を呼んで調査を深めることができる。
- 大淵座長** 技能実習生の制度の仕組みをよく押さえ、その上で研究をしていく必要がある。
- 西田委員** 大使館に交流協会などがあると思うので、道内でどれくらいあるのか調べてみてはどうか。
- 貳又委員** 渋谷水産、フォーレ白老にベトナム人が働いている。来日の経路が異なるかもしれないため、企業に対して手続きなどを聞いたほうが良いと思う。
- 高橋局長** 白老フーズにもいるかと思う。企業別に調べてみるのが一番よいかと思う。
- 大淵座長** 企業に話を聞くのもよい。どのような方法が良いのか、まずは制度を調べて、どのくらいの交流ができるかを把握し、その上で動いていくとよいか。
- 西田委員** 町連合でも外国人のことは問題と捉えている。草刈りやごみ拾いなど地域活動の時に外国人を招いて交流をしたいがどうしたらよいかという話題が上がった。それが分からない状態のままである。言葉の壁により上手くは続かないという話も聞いている。
- 大淵座長** 緑泉郷で中国人とのごみトラブルがあったということで現地を見てきた。外国人登録等状況を調べるのはなかなか難しいものである。事務局と相談して、貳又委員の話を含めて、どのように調べるとよいのか検討する。人口増の要因になると思うため、今後議論をしていく。

2. 協議事項

(1) 若者定住の調査・研究の論点について

① 論点の集約

※参考資料：第32次地性調査申から「2040年問題と地方議会」（地方議会人9月号）

○**高橋局長** 最近のものについての情報提供を資料として今日配付している。「地方議会」について説明する。人口減少社会における議会の役割がある。「議会は地域の多様な民意を集約し、団体意思を決定する機能や政策を形成する機能、執行機関を監視する機能を担っており、民主主義・地方自治に欠かすことのできない住民を代表する合議制の機関として、独任制の長にはない存在意義がある」というのが前提条件である。議員のなり手不足に対する検討の方向性は、議会における多様性の確保、住民の理解を促進する取組の必要性、議員のなり手不足に対する当面の対応が挙げられる。今回の地方制度調査会は2040年に着地点を置いて検討したという、バックキャスト思考によるもので、想定したものに対してさかのぼって考える特徴的な手法である。

○**大淵座長** 若者定住の調査の論点について、前回の局長の説明にあった、「若い女性が白老町で結婚して出産し、子育てを家族ですることができる、若い女性に視点を置いたまちづくり」については、町は具体的な施策など考え方がないように思う。若い女性が白老町で楽しく子育てしたいと思えるまちとはどのようなものなのか、これは男性を含めて共通するものなのではないかと思っている。その点を中心として、他市町村から転入する女性に、将来子供と暮らしたいと思えるまちづくりには何が必要なのかといったことを考えるのはどうか。焦点を絞って考えていく必要がある。

○**長谷川委員** 市町村の子育て支援策の一覧を以前の研究会で見たが、出産から子供の独立までの出費や人生設計が分かるようなものをつくって、他のまちと比べることができたら一つ選ぶ目安になると思う。

○**氏家委員** まちが今まで進めてきた施策の検証を進める上で、今後どうあるべきかを施策に盛り込んでいく必要がある。その一つとして産後ケアに関する取組が必要であると思う。子育ては生まれてから10か月くらいまでの間は、周囲のサポートがないと特に大変な時期である。町として施策を掲げる必要がある。結婚して間もない人へのアピールや、精神的な部分のサポートにもなる。安心して子供を産み育ててもらうために必要なことは、お金をかけることより環境整備なのではないか。移住して出産し近くに頼れる人がいない人は、特にそのような環境を必要としている。

○**高橋局長** 論点の整理でいえば、若者の定住という点から、入ってくる人と今いる人へのサポートを考えると、移住者へのサポートなのか、居住者へのサポートなのかを整理しながら検討する必要があると思う。

○**長谷川委員** 子育て支援に関しては入ってくる人も今いる人も同じかと思う。子供を産み育てるには以前は家族3代でサポートを受けてきたが、近所付き合いではそこまでのサポートにはならない。子育てサポートセンターの存在やサービスを知らない人がいるので、その部分の周知が必要である。

○**西田委員** もっと基本的なところとして、白老町で学ぶ高校生の子供たちに働ける環境をつくるのが特に大事であると思う。今は高校の新卒の人が働く場があるとは聞かない。卒業後に町外へ

就職しに出て行くことが非常に多い。町内に就職先があれば町内にとどまり結婚の機会を得ることが可能であるが、町外に出てから結婚して町へ戻ってくることは難しい。働くための社会保険などの福利厚生が手厚くなる必要がある。

○大淵座長 長谷川委員からあった、結婚・妊娠・出産・子育てまでのことが分かるものは冊子を含めてあるのか。祝い金や住まいの補助など一連のことが分かるものはないのか。子育て支援ハンドブックが町で数年前に発行されたが、認知度は低い。結婚する人などに配付される仕組みが徹底される必要がある。

○氏家委員 ハンドブックは子供が生まれてからもらうより、結婚した時にももらう方が効果がある。様々な施策を打ち出して終わってしまうことが多い。そういう面では少々本気度が足りない。若い世代にはホームページなどインターネットでの周知ができればよい。

○大淵座長 他市町村から若い世代が転入し、結婚して子供を生み育てる人を増やすため、また若い世代の女性を増やすため、まちのことが分かる仕組みづくりを考える必要がある。その部分を論点として取り組んではどうか。

(2) 今後の研究会の進め方について

① 講演会の開催 (10月28日(水) 15:00、アイヌ財団今井専務、定住策)

○大淵座長 今後の研究会の進め方について

○高橋局長 10月28日にアイヌ民族文化財団の今井専務に講演をしてもらうための依頼は先に口答で済ませている。後日事務局から依頼文を送るが、必要な事項を確認する。15時からとして、テーマは、「白老町における若者の定住策について」ということでよろしいか。また、ほかに聞きたいことはないか確認したい。

○大淵座長 演題についてどうか。どのような話をしてもらいたいのか。

○貳又委員 論点の集約にかかるかと思うが、考え方として鳥の目と虫の目の視点が必要である。虫の目は本町の子育て支援策をどうするのかということ、鳥の目は町内で増えている空き家問題があるため、移住者を増やすことが重要である。今企業によってはサテライトオフィスを立てて田舎暮らしをしているところがある。災害対策として都市部から分散している傾向がある。今井講師には鳥の目の話をしてもらいたい。ウポポイの職員が町内に住んでもらう手立てが何かを知りたい。

○久保委員 白老町の子供たちが町内にとどまるか出て行くかの割合は今も昔もあまり変わらないかと思っている。外国人労働者の話は新しい可能性を広げるよい試みで、ほかにも考えられるのかと思う。ウポポイの職員の定住など、新しい分野に磨きをかけることで、一人でも多くの人がこのまちに暮らすようになると思う。

○貳又委員 先ほどの話を具体的にいうと、竹浦をイメージすると各学年の人数は非常に少ない。首都圏の企業においてサテライトオフィスは古い建物を改修して使用することも考えられる。そのようなことで企業進出があればその家族として児童生徒が増えるのではないかと思う。今井専務にはまちの魅力を広い視点で気づかせてくれるような話をお願いしたい。

○氏家委員 さらに現実的に考えると、これから若い人たちに暮らしてもらうとなれば、今後のまちがどのように変わっていくのかを見据える必要がある。それは若い人たちへの負担の問題があるからである。人口減少がある程度の規模で収まっても、家屋が点在する地域で行政区域をどう維持するのかは、インフラ整備などを考えると居住区域を集約する必要が出てくるのではないか。そのための検討プロセスはどうあるべきか、まちづくりの在り方、ランドデザインの再構築に関わってくる。町内会が衰退し、空き家が増えていく中、何らかの手立てで住民が再び住めるような新たな環境づくりが必要である。そういうことを含めて、まちがどうあるべきか、町民との関わり方、特に懇談の在り方がどうあるべきか。住民の声にそのまま応えるということではない。懇談や情報共有があって住民参加がある。これからのまちの形成の在り方について話してもらいたい。

○大淵座長 全国的な人口減少の中で、大きな視点と身近な視点での話を具体的にしてもらうように依頼する。

○高橋局長 今の意見を項目出しして、ピックアップされる部分があるかもしれないが、内容をまとめて依頼する。厚生労働省で出している人口動態統計が9月17日に出された。年間出生数が年々減少しており、年間5万人ずつ減っている。また、合計特殊出生率は1.42から1.36へ減少しており、限りなく1.0人へ近づいている。出生数と死亡数の自然動態でいえば、毎年50万人ずつ減っている。どういうわけか、婚姻件数は増加していて、年間60万件で、離婚件数は年間21万件である。

② アンケート調査

○佐藤副座長 アンケート調査の案は森委員と共に作成した。最初は項目が多かったがコンパクトにした。

- 西田委員 年齢や性別を聞くのは最後に聞くと、構えさせずに回答してもらえらる。
- 高橋局長 一般的には最初に属性を聞く。答えやすさの視点で最後に聞くことは構わないと思う。
- 貳又委員 本町の魅力について尋ねる項目にはウポポイのことを加えるとよい。
- 氏家委員 陣屋の来館者が増えているのは、ウポポイの相乗効果があるのではないか。アイヌ文化に関する関心度が高まっていると感じる。
- 大淵座長 このアンケートはどのように行うのか。
- 佐藤副座長 ウポポイの職員に先に回答してもらい、それを踏まえて年内に実施して、企業訪問につなげてはどうかと考えている。
- 貳又委員 出身地を問うなら町に在住している年数を聞くことが必要である。また、本町に住んでいない理由を聞くところなど、聞いた結果から何を知りたいのかを考えるなど少々工夫が必要である。
- 佐藤副座長 出身地はUターンやIターン、Jターンなどを把握するために設定した。
- 貳又委員 それであれば出身地を聞くより、Uターンなどを直接聞いた方がいいのではないか。
- 佐藤副座長 最初はそのように設定していたが、用語説明を加える必要があると思い、出身地を聞くことにした。
- 高橋局長 出身地は、白老町、北海道内、他都府県、海外などに設定するとどうか。移住定住に関するアンケートであるが、移住に関する項目のみ設定されている。定住に関する項目を設けるかの検討が必要であると思う。
- 西田委員 家族構成は同居家族か別居家族を含むのか、独身なのかそうでないのか、その辺りを整理するとよい。移住の際に重視することの選択肢で、安価な住宅や土地が確保できるという項目があるが、アパートなのか戸建てなのかははっきりしないため、住宅と土地は別にした方がよい。
- 大淵座長 次回までに修正をして、14日に再度確認をしたい。

③ 企業訪問活動（聞き取り調査）

- 貳又委員 28日の講演会で今井専務の講演を聞き、その後ウポポイの職員を対象に12月くらいまでに動きを取りたいと考えている。アンケート実施には今井専務に相談に乗っていただいて検討を進めたい。
- 大淵座長 まずはウポポイへのアンケート実施から検討するということがよろしいか。（一同：よろしい。）

④ 地域おこし協力隊との意見交換会

- 大淵座長 担当を決めていないのは企画課に話をしてもらおう考えからである。
- 高橋局長 協力隊は毎年活動報告会を開催している。その際に現隊員と退任した隊員を交えて、その機会を活用した意見交換会の開催が検討できるかもしれない。11月頃の開催である。
- 大淵座長 企画課と調整してもらいたい。活動報告会と兼ねるなら年内が可能かもしれないが、別の機会であるなら年内が難しいかもしれない。スケジュールを含めて検討する。

4. その他

- 大淵座長 町内在住の外国人との勉強会についても、次回辺り担当課との準備が整えば実施したい。かなりスケジュールが混んでくる。技能研修生を受け入れている企業との懇談がよいのか。それを含めて検討する。次回は外国人の関係をもう少し詳しく話し合いたい。アンケートや企業訪問、地域おこし協力隊との意見交換会の検討についても、次回で目処をつけたい。